

## 【審査論文】

## 青年と親からみた親の期待のあり方に関する探索的検討

池田幸恭

An exploratory study of parental expectations  
as viewed by adolescents and parents

Yukitaka IKEDA

## 要旨

本研究の目的は、青年世代と親世代の双方からみた親の期待のあり方について、親の期待している理由、親の期待にこたえられない場合の反応予期、親が期待していないことの心理的意味という観点から明らかにすることである。青年世代240名（男性120名、女性120名）と親世代240名（男性120名、女性120名）にweb調査を実施し、青年世代（15歳から29歳）には親からの期待、親世代には15歳から29歳までの子どもへの期待について尋ねた。親の期待を感じている程度および期待している内容に加えて、期待を感じている回答者には期待している理由と期待にこたえられない場合の反応予期、期待を感じていない回答者には親が期待していないことの心理的意味に関する自由記述を求めた。親の期待している理由として「1-子のための思い」「2-親の考えの優先」「3-現状懸念」、親の期待にこたえられない場合の反応予期として「1-子への支援」「2-子の意思の尊重」「3-子への非難」、親が期待していないことの心理的意味として「1-自由」「2-疑念」「3-無関心」「4-無執着」というカテゴリーがそれぞれ見いだされた。青年は親が抱いているよりも親からの期待を感じておらず、青年と親が感じる期待のあり方にずれがみられる場合のあることが示唆された。子が親の期待にこたえられない場合でも支援すると考える親が多かった一方で、青年は親から非難されると考える傾向が多くみられた。さらに親が期待していないことも、親にとっては生き方を子に委ねるなど自由を意味することが多い一方で、青年にとっては特にこだわらないという無執着を意味することが多くみられた。このような青年と親が感じる期待のあり方のずれを調整したりお互いが納得できるように変化させたりすることが重要になること、親の期待のあり方のずれが青年期の親子関係を変化させるきっかけになること、親が期待していないことに特にこだわらない無執着というあり方も青年の発達にとって有意味であることを論じた。

**キーワード：**親の期待 (parental expectation)、青年期 (adolescence)、親子関係 (parent-child relationship)、web調査 (web survey)

## 問題

青年は親からの自立や進路選択において、親の期待から一方的に影響を受けるだけでなく、親の期待に対して主体的に取りくんでいくといえる。Smetana (2011) は社会的領域理論に基づいて、青年と親が日常的な葛藤をとおして、親の要求に従うだけでなく青年自身が行動を選択し決定する範囲が広がってい

くことを論じている。また、親の期待に過剰に応えようとする「よい子」(春日, 1997)や「迎合的自分」(内田, 2014)の問題も指摘されている。

池田(2009)は大学生における親の期待に対する反応様式として、親の期待の積極的受容、親の期待への反発、親の期待との折り合い、自分の生き方の尊重、親の期待の軽視、親の期待への表面的な迎合、親の期待に応えることへの限界の認識、親の期待による負担感という8種類を見いだしている。そして、アイデンティティの感覚との関連から、“青年期後期の親の期待に対する発達した反応様式とは、親の期待に対して負担感や反発を示すのではなく、親の期待との折り合いをつけ、自分の生き方を尊重していくことである”と論じている(池田, 2009, p.13)。さらに、池田(2011)は親の期待からみたアイデンティティ形成について、「親の期待を感じているか、感じていないか」という「親の期待の実感」、親の期待という基準に対する「親の期待の問い直し」の経験、親の期待と自分の意思が合致しているか否かという「親の期待と自分の意思との適合性」という観点を指摘している。このように青年の親の期待に対する反応様式は、青年自身の発達や親の期待のあり方によっても変化すると考えられる。

内田(2014)は、“《親の期待》には、ネガティブな側面としての＜操作的期待＞とポジティブな側面としての“子どもへの思い”が混然一体となっており、両義的なものとして捉えられる”として、“その期待が、ネガティブな側面である＜操作的期待＞が強く作用するときは、子どもは、自分の主体性を失い、不登校や心身症などの適応上の問題を生じる可能性がある”と論じている(p.237)。さらに内田(2014)は、心理的面接における親の期待のあり方として、“操作的期待—行き詰まり—あきらめ—ありのままを認めるというプロセス”を見いだしている(p.238)。このことは、子の立場からすると「親はなぜ自分に期待しているのか」という親の期待の背景にある理由を感じ取りながら、青年は親の期待に向き合っているといえる。

また、親の期待に対する子による反応予期の重要性も注目されている。Simons-Morton(2004)は、喫煙行動の開始と親による影響を検討し、親のネガティブな反応予期は喫煙行動と負の関連があることを示している。渡部(2013)は、Simons-Morton(2004)が用いた反応予期の項目が喫煙行動に限定されていることに加え親のポジティブな反応が含まれていないことから、期待への行動結果に対する親の反応についての子どもの予期尺度を作成している。期待への行動結果に対する親の反応についての子どもの予期尺度(渡部, 2013)は、「サポート反応予期」(「自分が期待に応えられなかった場合、親は慰めてくれると思う」など)と「落胆的反應予期」(「自分が期待に応えられなかった場合、親は悲しむと思う」など)の2下位尺度から構成されている。中学生では、「サポート反応予期」は女子の得点が男子より高く、「落胆的反應予期」は男子の得点が女子よりも高かった。

一方で、池田(2009)は大学生221名のうち36名(16.3%)が親の期待をまったく感じていないと回答しており、親の期待を感じている大学生よりもアイデンティティの感覚が概ね大きいことを報告している。池田(2011)は、親の期待を感じていない場合には、生き方は自分自身に委ねられているという「委ね」、親は自分のことを大切に思っているかどうか疑問に感じるなどの「模索」、どうせ自分は親から何も期待されていないという「見捨てられ感」などの心理状態がみられる可能性を指摘している。親の期待を積極的に受けいれている大学生と親にまったく期待されてこなかったと感じている大学生が二極化している傾向も指摘されており(池田, 2016)、親が期待している理由と同時に、親が期待していないことが青年と親の双方にとってどのような意味を有しているのかについても検討する必要がある。

このように青年期の親子関係を理解する上で親の期待のあり方が重要であると考えられるが、その研究は少ない状況にある。先行研究(池田, 2009など)では、親自身からみた親の期待が考慮されていないこと、

父親と母親による期待が区別されていないこと、中学生、高校生、大学生が回答者の中心であり青年期から成人期への移行の時期が検討されていないことが課題として指摘できる。

本研究では親の期待のあり方について、親の期待している理由、親の期待にこたえられない場合の反応予期、親が期待していないことの心理的意味という観点から検討する。先述した先行研究の3つの課題を踏まえて、本研究では次の3点を考慮した研究を行う。第1に、青年世代からみた親の期待と親世代による自身の子への期待の双方について調査を実施する。第2に、父親と母親による期待の両方を区別して尋ねる。第3に、子である青年の年齢が15歳から29歳までの親子関係を取りあげる。このように青年世代と親世代の幅広い年齢層からみた親の期待のあり方を検討するために、web調査を実施する。「親の期待」は、池田（2009）にしたがい、「子が親から“こうあってほしい”あるいは“こうなってほしい”と望まれること」としてとらえる。親の期待のあり方に関する研究が少ない状況にあることから、回答者の実感を探索的にとらえることのできる自由記述に基づく検討を行う。

## 目的

本研究の目的は、青年世代と親世代の双方からみた親の期待のあり方について、親の期待している理由、親の期待にこたえられない場合の反応予期、親が期待していないことの心理的意味という観点から明らかにすることである。

そのため、親の期待を感じている程度および親の期待している内容を確認した上で、親の期待している理由、親の期待にこたえられない場合の反応予期、親が期待していないことの心理的意味について、KJ法（川喜田，1970）を参考にそれぞれ分類、整理する。

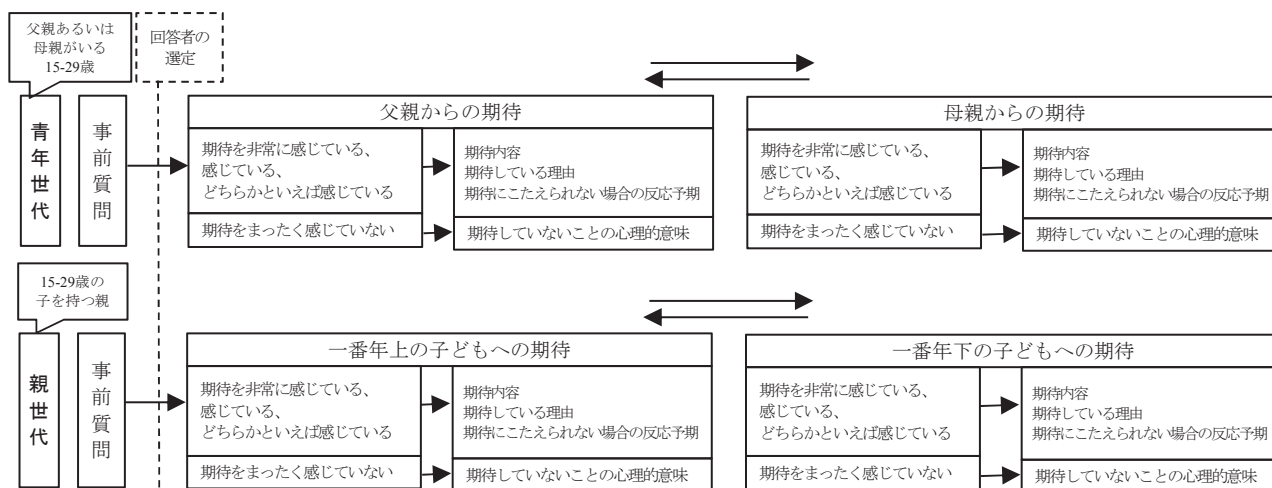
## 方法

### 調査回答者

青年世代240名（男性120名、女性120名）と親世代240名（男性120名、女性120名）に調査を実施した。青年世代は、年齢3群（15-19歳、20-24歳、25-29歳）と性別2群（男性・女性）を組み合わせた6群で父親あるいは母親のいずれかがいる各40名から回答を得た。親世代は、最も年上の子どもの性別2群（息子・娘）、子どもの年齢3群（15-19歳・20-24歳・25-29歳）、性別2群（男性・女性）を組み合わせた12群で各20名から回答を得た。青年世代の平均年齢は男性が22.36 ( $SD=4.23$ ) 歳、女性が22.38 ( $SD=4.09$ ) 歳であり、親世代の平均年齢は父親が52.24 ( $SD=6.20$ ) 歳、母親が50.17 ( $SD=6.22$ ) 歳であった。

### 調査時期および手続き

2014年8月に、調査会社（株式会社クロス・マーケティング）をとおしてweb調査を実施した。青年世代には父親および母親について、親世代には15歳から29歳までの子どもが複数いる場合には一番年上の子どものおおよび一番年下の子どもについて、それぞれ回答を求めた（Figure 1）。質問する期待の提示順序はランダムであった。子どもが一人の場合は、一番年上の子どもの回答を求めた。



注「事前質問」は、性別、職業、年齢、家族構成の内容を指す。期待の提示順序はランダムであった。一方の期待にのみ回答する場合もある。

Figure 1 調査手続き

## 調査内容

性別、年齢、職業、家族構成の他、主に以下の内容を調査した<sup>1</sup>。

**親の期待を感じている程度** 青年世代には“あなたは、普段「こうあってほしい」あるいは「こうなってほしい」というように親から期待をされているとどのくらい感じていますか。”と教示し、親世代には“あなたは、普段、「こうあってほしい」あるいは「こうなってほしい」というようにお子さまに期待していますか。”と教示して、「非常に感じている」「感じている」「どちらかといえば感じている」「まったく感じていない」の選択肢から1つを選んでもらった。親の期待を「非常に感じている」「感じている」「どちらかといえば感じている」とした回答者には、以下の「親の期待内容」「親の期待している理由」「親の期待にこたえられない場合の反応予期」を尋ねた。親の期待を「まったく感じていない」とした回答者には、以下の「親が期待していないことの心理的意味」のみを尋ねた。

**親の期待内容** 青年世代には“あなたは、親からどのような期待をされていると感じていますか。”と教示し、親世代には“あなたは、子どもにどのようなことを期待していますか。”と教示して、思い浮かぶことを自由に5つまで記述してもらった。それらの中から、最も期待していると思う内容を1つ選択してもらった。

**親の期待している理由** 選択した最も期待していると思う内容を想定してもらい、青年世代には“そのように親があなたに期待しているのは、なぜだと思いますか。”と教示し、親世代には“そのようにあなたが子どもに期待しているのは、なぜですか。”と教示して、思い浮かぶ親が期待している理由を5つまで記述してもらった。

**親の期待にこたえられない場合の反応予期** 選択した最も期待していると思う内容を想定してもらい、青年世代には“そのような親からの期待に、あなたがこたえることができないと、どうなると思いますか。”と教示し、親世代には“そのようなあなたの期待に、子どもがこたえることができないと、どのように思ったり、どのような行動を示したりしますか。”と教示して、思い浮かぶことを5つまで記述してもらった。

**親が期待していないことの心理的意味** 青年世代には“親から期待をされていないということについて、あなたはどのように感じたり、考えたりしますか。”と教示し、親世代には“あなたが子どもに期待をしていないのはなぜですか。”と教示して、親が期待していないことへのとらえ方や理由で思い浮かぶことを



5つまで記述してもらった。この質問は、親の期待を「まったく感じていない」とした回答者のみに尋ねた。本研究の分析に用いた統計パッケージは、SPSS Statistics 23.0であった。

## 結果

### 回答者の職業と親の期待を感じている程度

調査回答者の職業について、青年世代における15-19歳、20-24歳、25-29歳の性別ごとに20.0%以上の回答があったものを以下に述べる。15-19歳では、高校生が男性18名（45.0%）かつ女性17名（42.5%）、大学生が男性13名（32.5%）かつ女性15名（37.5%）であった。20-24歳では、大学生が男性19名（47.5%）かつ女性14名（35.0%）、パート・アルバイトが女性11名（27.5%）、会社員（一般社員）が女性8名（20.0%）であった。25-29歳は、会社勤務（一般社員）が男性23名（57.5%）かつ女性13名（32.5%）、パート・アルバイトが女性10名（25.0%）であった。親世代については、最も年上の子どもの年齢群ごとに、父親と母親それぞれ20.0%以上の回答があったものを述べる。最も年上の子どもが15-19歳である父親は会社勤務（一般社員）が16名（40.0%）、会社勤務（管理職）が13名（32.5%）であり、母親はパート・アルバイトが15名（37.5%）、専業主婦が15名（37.5%）、会社勤務（一般社員）が8名（20.0%）であった。最も年上の子どもが20-24歳である父親は会社勤務（一般社員）が13名（32.5%）、会社勤務（管理職）が9名（22.5%）であり、母親は専業主婦が20名（50.0%）であった。最も年上の子どもが25-29歳である父親は会社勤務（一般社員）が11名（27.5%）であり、母親は専業主婦が17名（42.5%）、パート・アルバイトが9名（22.5%）であった。

青年世代と親世代における父親と母親の期待を感じている程度について、男性（息子）、女性（娘）ごとにTable 1に示した。親世代による最も年上の子ども（あるいは子どもが一人の場合）への期待については、父親と母親それぞれで、15歳から29歳までの息子と娘へ60名ずつ計240名の回答を得た。最も年下の子どもへの期待については、父親から息子は46名、父親から娘は51名、母親から息子は38名、母親から娘は41名の回答を得た。

Table 1 親の期待を感じている程度の割合

|          |    |    | まったく<br>感じていない | どちらかといえば<br>感じている | 感じている     | 非常に<br>感じている | 合計          |
|----------|----|----|----------------|-------------------|-----------|--------------|-------------|
| 青年<br>世代 | 父親 | 男性 | 47 (44.3)      | 37 (34.9)         | 17 (16.0) | 5 (4.7)      | 106 (100.0) |
|          |    | 女性 | 60 (56.1)      | 30 (28.0)         | 14 (13.1) | 3 (2.8)      | 107 (100.0) |
|          | 母親 | 男性 | 35 (30.2)      | 38 (32.8)         | 31 (26.7) | 12 (10.3)    | 116 (100.0) |
|          |    | 女性 | 47 (40.5)      | 36 (31.0)         | 21 (18.1) | 12 (10.3)    | 116 (100.0) |
| 親<br>世代  | 父親 | 息子 | 25 (23.6)      | 34 (32.1)         | 38 (35.8) | 9 (8.5)      | 106 (100.0) |
|          |    | 娘  | 20 (18.0)      | 45 (40.5)         | 38 (34.2) | 8 (7.2)      | 111 (100.0) |
|          | 母親 | 息子 | 17 (17.3)      | 54 (55.1)         | 23 (23.5) | 4 (4.1)      | 98 (100.0)  |
|          |    | 娘  | 19 (18.8)      | 49 (48.5)         | 26 (25.7) | 7 (6.9)      | 101 (100.0) |

注) 青年世代は「親からの期待を感じている程度」、親世代は「子どもへ期待している程度」を示している。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの両方の期待が含まれている。

親の期待を「まったく感じていない」群と、「どちらかといえば感じている」「感じている」「非常に感じている」の3種類の回答を合わせた群について、世代（2：青年世代・親世代）と程度（2：まったく感じていない群・感じている群）の組み合わせによる $\chi^2$ 検定を行った<sup>2</sup>。父親について男性と息子

( $\chi^2(1, N=212)=10.18, p<.01$ )、女性と娘( $\chi^2(1, N=218)=33.97, p<.001$ )、母親について男性と息子( $\chi^2(1, N=214)=4.75, p<.05$ )、女性と娘( $\chi^2(1, N=217)=12.02, p<.01$ )すべての組み合わせで有意な人数比の偏りがみられた。残差分析(5%水準)の結果、すべての組み合わせで、青年世代は親世代よりも期待を感じていなかった。

### 親の期待内容

親の期待している内容について、青年世代において父親で135件、母親で203件が得られ、親世代の父親から199件、母親から227件の記述が得られた。青年世代と親世代それぞれで親の期待している内容の類似性に基づいて分類、整理し、最終的に両方を統合した結果、「進学・就職」「結婚・家庭生活」「人間的成長」「生活の充実」「自立」「家族への貢献」「学業」「資格取得」「経済状況」「活躍」「健康」「社会的適応」「親への従順」という13種類が見いだされた。

青年世代における父親が最も期待している内容として20.0%以上の選択がみられたのは、男性では15-19歳で「進学・就職」(7名, 41.2%)、「人間的成長」(4名, 23.5%)、20-24歳で「進学・就職」(7名, 43.8%)、25-29歳で「社会的適応」(5名, 22.7%)であった。青年世代の女性では、15-19歳で「学業」(3名, 20.0%)、20-24歳で「社会的適応」(7名, 28.6%)、25-29歳ではみられず「進学・就職」「結婚・家庭生活」「人間的成長」が3名(18.8%)ずつで最も多かった。

青年世代における母親が最も期待している内容として20.0%以上の選択がみられたのは、男性では15-19歳で「進学・就職」(11名, 44.0%)、20-24歳で「進学・就職」「社会的適応」が5名(23.8%)ずつ、25-29歳で「結婚・家庭生活」(7名, 25.9%)であった。青年世代の女性では、15-19歳で「進学・就職」(7名, 29.2%)、20-24歳で「人間的成長」(6名, 28.6%)、25-29歳で「結婚・家庭生活」(10名, 45.5%)であった。

親世代における父親が最も期待している内容として20.0%以上の選択がみられたのは、息子には15-19歳で「進学・就職」(8名, 32.0%)、「自立」(5名, 20.0%)、20-24歳で「進学・就職」(14名, 46.7%)、25-29歳で「進学・就職」(4名, 25.0%)であった。父親から娘には、15-19歳で「進学・就職」(7名, 23.3%)、「生活の充実」(7名, 23.3%)、「人間的成長」(6名, 20.0%)、20-24歳ではみられず「社会的適応」(6名, 19.4%)が最も多く、25-29歳では「結婚・家庭生活」「社会的適応」が4名(22.2%)ずつであった。

親世代における母親が最も期待している内容として20.0%以上の選択がみられたのは、息子には15-19歳で「進学・就職」「人間的成長」「自立」が6名(25.0%)ずつ、20-24歳で「生活の充実」(6名, 21.4%)、25-29歳で「結婚・家庭生活」(6名, 26.1%)、「生活の充実」「自立」が5名(21.7%)ずつであった。母親から娘には、15-19歳で「自立」(8名, 38.1%)、「進学・就職」(7名, 33.3%)、20-24歳で「結婚・家庭生活」(8名, 25.0%)、25-29歳では「生活の充実」(5名, 27.8%)、「結婚・家庭生活」(4名, 22.2%)であった。

### 親の期待している理由

親の期待している理由について、青年世代において父親で118件、母親で172件が得られ、親世代の父親から165件、母親から167件の記述が得られた。青年世代と親世代それぞれで親の期待している理由について、内容の類似性に基づいて分類、整理し、最終的に両方を統合した結果、13グループが見いだされた。さらに、それらのグループは「1-子のための思い」「2-親の考えの優先」「3-現状懸念」の3カテゴリーと「不明」にまとめられた。「不明」(2グループ)を除く11グループを3カテゴリーに整理する信頼性を確かめるために、発達心理学を専門とする大学教員3名にカテゴリーの評定を依頼した。具体的には、グループごとに2件ずつ計22件の記述例について、いずれのカテゴリーが最もあてはまるかを評定してもらっ

た。同グループの2件の記述例に対する評価が3名すべてで一致した場合は評価されたカテゴリーにしたがい、一致しなかった場合は筆者の整理を優先した。最終的なカテゴリーと3名の評価者間の一致率の平均は72.7% (68.2-77.3%)、 $\kappa$  係数の平均は.58 (.50-.66)であった (すべて $p < .001$ )。Landis & Kock (1977)の基準では「中程度の一致」(.41-.60)となった。父親の期待している理由をTable 2、母親の期待している理由をTable 3に示す。

Table 2 父親の期待している理由

|           |              |                   | 青年世代 (親が期待している理由の認知) |            |            |            | 親世代 (子へ期待している理由) |            |            |          |
|-----------|--------------|-------------------|----------------------|------------|------------|------------|------------------|------------|------------|----------|
| カテゴリー     | グループ         | 記述例               | 年齢群                  | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳     | 15-19歳           | 20-24歳     | 25-29歳     |          |
| 1-子のための思い |              | 子どものため、子どもの高評価、   | 男性/息子                | 9 (50.0)   | 4 (21.1)   | 3 (13.0)   | 11 (34.4)        | 8 (25.8)   | 8 (42.1)   |          |
|           |              | 十分                | 能力が高いから              | 女性/娘       | 8 (47.1)   | 6 (31.6)   | 3 (13.6)         | 12 (35.3)  | 13 (44.8)  | 6 (30.0) |
| 2-親の考えの優先 |              | 親自身のため、家のため、親の経験、 | 男性/息子                | 6 (33.3)   | 9 (47.4)   | 13 (56.5)  | 8 (25.0)         | 12 (38.7)  | 5 (26.3)   |          |
|           |              | 出生順位・性別、重要視、当然視   | 女性/娘                 | 3 (17.6)   | 7 (36.8)   | 11 (50.0)  | 15 (44.1)        | 7 (24.1)   | 8 (40.0)   |          |
| 3-現状懸念    |              | 社会的不安、現状改善        | 世の中が不安定だから           | 男性/息子      | 0 (0.0)    | 3 (15.8)   | 2 (8.7)          | 10 (31.3)  | 10 (32.3)  | 5 (26.3) |
|           |              |                   | 自分のことが全部出来ていない       | 女性/娘       | 2 (11.8)   | 5 (26.3)   | 4 (18.2)         | 6 (17.6)   | 6 (20.7)   | 5 (25.0) |
| 不明        | 言動による判断、理由不明 | 毎日言われるから、         | 男性/息子                | 3 (16.7)   | 3 (15.8)   | 5 (21.7)   | 3 (9.4)          | 1 (3.2)    | 1 (5.3)    |          |
|           |              | わからない、特別な理由はない    | 女性/娘                 | 4 (23.5)   | 1 (5.3)    | 4 (18.2)   | 1 (2.9)          | 3 (10.3)   | 1 (5.0)    |          |
| 合計        |              |                   | 男性/息子                | 18 (100.0) | 19 (100.0) | 23 (100.0) | 32 (100.0)       | 31 (100.0) | 19 (100.0) |          |
|           |              |                   | 女性/娘                 | 17 (100.0) | 19 (100.0) | 22 (100.0) | 34 (100.0)       | 29 (100.0) | 20 (100.0) |          |

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。

Table 3 母親の期待している理由

|           |                   |                   | 青年世代 (親が期待している理由の認知) |            |            | 親世代 (子へ期待している理由) |            |            |            |
|-----------|-------------------|-------------------|----------------------|------------|------------|------------------|------------|------------|------------|
| カテゴリー     | グループ              | 記述例               | 年齢群                  | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳           | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳     |
| 1-子のための思い | 子どものため、子どもの高評価、   | 苦勞をしてほしくないから、     | 男性/息子                | 13 (43.3)  | 6 (27.3)   | 7 (24.1)         | 5 (20.8)   | 14 (41.2)  | 7 (22.6)   |
|           | 十分                | 頼りになるから           | 女性/娘                 | 10 (33.3)  | 8 (26.7)   | 10 (32.3)        | 9 (34.6)   | 15 (42.9)  | 7 (41.2)   |
| 2-親の考えの優先 | 親自身のため、家のため、親の経験、 | ニートになったら困る、       | 男性/息子                | 15 (50.0)  | 9 (40.9)   | 14 (48.3)        | 10 (41.7)  | 13 (38.2)  | 16 (51.6)  |
|           | 出生順位・性別、重要視、当然視   | 長女だから、親がお金に苦勞したので | 女性/娘                 | 7 (23.3)   | 17 (56.7)  | 14 (45.2)        | 11 (42.3)  | 13 (37.1)  | 5 (29.4)   |
| 3-現状懸念    | 社会的不安、現状改善        | 社会全体が不安定だから、      | 男性/息子                | 0 (0.0)    | 5 (22.7)   | 3 (10.3)         | 7 (29.2)   | 7 (20.6)   | 8 (25.8)   |
|           |                   | しっかりしてないから        | 女性/娘                 | 5 (16.7)   | 4 (13.3)   | 2 (6.5)          | 6 (23.1)   | 6 (17.1)   | 5 (29.4)   |
| 不明        | 言動による判断、理由不明      | そういうことを匂わせる発言をする、 | 男性/息子                | 2 (6.7)    | 2 (9.1)    | 5 (17.2)         | 2 (8.3)    | 0 (0.0)    | 0 (0.0)    |
|           |                   | なんとなく、特にない        | 女性/娘                 | 8 (26.7)   | 1 (3.3)    | 5 (16.1)         | 0 (0.0)    | 1 (2.9)    | 0 (0.0)    |
| 合計        |                   |                   | 男性/息子                | 30 (100.0) | 22 (100.0) | 29 (100.0)       | 24 (100.0) | 34 (100.0) | 31 (100.0) |
|           |                   |                   | 女性/娘                 | 30 (100.0) | 30 (100.0) | 31 (100.0)       | 26 (100.0) | 35 (100.0) | 17 (100.0) |

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。

「1-子のための思い」は「子どものため」「子どもの高評価」「十分」の3グループが含まれており、幸せに暮らしてほしいなど、子どものために思って親は期待しているという理由である。「2-親の考えの優先」は「親自身のため」「家のため」「親の経験」「出生順位・性別」「重要視」「当然視」の6グループが含まれており、親の望みや家の都合、親と同じ苦勞をさせたくない、世間体など親自身の考えを優先して期待しているという理由である。「3-現状懸念」は「社会的不安」「現状改善」の2グループであり、親が子の能力など現在の状態を懸念して期待しているという理由である。「言動による判断」と「理由不明」の2グループは「不明」とした。

性別ごとの各年代で5割以上の記述がみられたのは、青年世代では父親について15-19歳の男性で「1-子のための思い」、25-29歳の男性および女性で「2-親の考えの優先」、母親について15-19歳の男性で「2-親の考えの優先」、20-24歳の女性で「2-親の考えの優先」であった (50.0-56.7%)。親世代では、母親から25-29歳の息子へ「2-親の考えの優先」であった (51.6%)。

## 親の期待にこたえられない場合の反応予期

親の期待にこたえられない場合の反応予期について、青年世代において父親で103件、母親で161件が得られ、親世代の父親から148件、母親から151件の記述が得られた。青年世代と親世代それぞれで親の

期待にこたえられない場合の反応予期について、内容の類似性に基づいて分類、整理し、最終的に両方を統合した結果、13グループが見いだされた。さらに、それらのグループは「1-子への支援」「2-子の意思の尊重」「3-子への非難」の3カテゴリーと「不明」にまとめられた。「不明」(1グループ)を除く12グループを3カテゴリーに整理する信頼性を確かめるために、親の期待している理由と同様の手続きで、発達心理学を専門とする大学教員3名にカテゴリーの評定を依頼した。グループごとに2件ずつ計24件の記述例についていずれのカテゴリーが最もあてはまるかを評定してもらった結果、最終的なカテゴリーと3名の評定者間の一致率の平均は79.1% (66.7-87.5%)、 $\kappa$ 係数の平均は.69 (.50-.81)であった(すべて $p<.001$ )。Landis & Kock (1977) の基準では「かなりの一致」(.61-.80)となった。父親の期待にこたえられない場合の反応予期をTable 4、母親の期待にこたえられない場合の反応予期をTable 5に示す。

「1-子への支援」は「応援」「親の指示」「相談」の3グループが含まれており、親の期待にこたえられない場合でも親は子を応援したり、指示を出したり話し合ったりして、期待を達成できるように子を支援するという反応予期である。「2-子の意思の尊重」は「変化なし」「あきらめ」「本人の責任」「見守り」「委ね」の5グループが含まれており、親の期待にこたえられない場合でも親は子自身の責任として見守り、子に委ねてあきらめ、その関係は変化しないという反応予期である。「3-子への非難」は「落胆」「叱責」「見切り」「親への迷惑」の4グループが含まれており、親の期待にこたえられない場合は迷惑をかけることで親は落胆し、叱責、子を見切ることもあるなど、親が子を非難するという反応予期である。その他の「分からない」「考えていない」などの記述は「不明」とした。

父親と母親の両方について性別ごとの各年代における「1-子への支援」の記述割合は、青年世代で0.0-23.8%にとどまっていることに対して、親世代では14.7-55.2%であり父親から15-19歳の息子と母親から15-29歳の娘には5割以上みられた。また、「3-子への非難」の記述割合は、青年世代で44.4-78.6%と5割以上の場合がほとんどであることに対して、親世代では父親からは0.0-19.4%、母親からは14.3-38.2%にとどまっていた。

Table 4 父親の期待にこたえられない場合の反応予期

|           |                            |                           |       | 青年世代(親の反応予期) |            |            | 親世代(自身の反応予期) |            |            |
|-----------|----------------------------|---------------------------|-------|--------------|------------|------------|--------------|------------|------------|
| カテゴリー     | グループ                       | 記述例                       | 年齢群   | 15-19歳       | 20-24歳     | 25-29歳     | 15-19歳       | 20-24歳     | 25-29歳     |
| 1-子への支援   | 応援、親の指示、相談                 | 支援する、説得、<br>とことん話し合う      | 男性/息子 | 0 (0.0)      | 1 (5.9)    | 5 (23.8)   | 16 (55.2)    | 4 (16.0)   | 3 (25.0)   |
|           |                            |                           | 女性/娘  | 2 (12.5)     | 2 (13.3)   | 0 (0.0)    | 14 (42.4)    | 7 (22.6)   | 5 (27.8)   |
| 2-子の意思の尊重 | 変化なし、あきらめ、<br>本人の責任、見守り、委ね | 特になにもならない、<br>それはそれで許容される | 男性/息子 | 9 (50.0)     | 4 (23.5)   | 4 (19.0)   | 8 (27.6)     | 14 (56.0)  | 8 (66.7)   |
|           |                            |                           | 女性/娘  | 3 (18.8)     | 2 (13.3)   | 4 (25.0)   | 12 (36.4)    | 15 (48.4)  | 8 (44.4)   |
| 3-子への非難   | 落胆、叱責、見切り、<br>親への迷惑        | 悲しむ、残念、<br>怒る、見捨てられる      | 男性/息子 | 8 (44.4)     | 8 (47.1)   | 10 (47.6)  | 4 (13.8)     | 4 (16.0)   | 0 (0.0)    |
|           |                            |                           | 女性/娘  | 8 (50.0)     | 10 (66.7)  | 12 (75.0)  | 5 (15.2)     | 6 (19.4)   | 2 (11.1)   |
| 不明        | 不明                         | 考えていない、<br>分からない          | 男性/息子 | 1 (5.6)      | 4 (23.5)   | 2 (9.5)    | 1 (3.4)      | 3 (12.0)   | 1 (8.3)    |
|           |                            |                           | 女性/娘  | 3 (18.8)     | 1 (6.7)    | 0 (0.0)    | 2 (6.1)      | 3 (9.7)    | 3 (16.7)   |
| 合計        |                            |                           | 男性/息子 | 18 (100.0)   | 17 (100.0) | 21 (100.0) | 29 (100.0)   | 25 (100.0) | 12 (100.0) |
|           |                            |                           | 女性/娘  | 16 (100.0)   | 15 (100.0) | 16 (100.0) | 33 (100.0)   | 31 (100.0) | 18 (100.0) |

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。

Table 5 母親の期待にこたえられない場合の反応予期

|           |                            |                   | 青年世代(親の反応予期) |            |            | 親世代(自身の反応予期) |            |            |            |
|-----------|----------------------------|-------------------|--------------|------------|------------|--------------|------------|------------|------------|
| カテゴリー     | グループ                       | 記述例               | 年齢群          | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳       | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳     |
| 1-子への支援   | 応援、親の指示、相談                 | できるだけ手助けする、       | 男性/息子        | 1 (3.8)    | 2 (8.0)    | 0 (0.0)      | 6 (31.6)   | 5 (14.7)   | 6 (28.6)   |
|           |                            | 頑張らせる、話し合う        | 女性/娘         | 1 (3.6)    | 0 (0.0)    | 0 (0.0)      | 12 (52.2)  | 12 (34.3)  | 8 (42.1)   |
| 2-子の意思の尊重 | 変化なし、あきらめ、<br>本人の責任、見守り、委ね | とくにどうもならない、       | 男性/息子        | 7 (26.9)   | 5 (20.0)   | 9 (30.0)     | 7 (36.8)   | 15 (44.1)  | 9 (42.9)   |
|           |                            | 見守っているだけ、子の考えに任せる | 女性/娘         | 2 (7.1)    | 9 (34.6)   | 6 (23.1)     | 7 (30.4)   | 16 (45.7)  | 5 (26.3)   |
| 3-子への非難   | 落胆、叱責、見切り、<br>親への迷惑        | がっかりする、ばかにされる、    | 男性/息子        | 16 (61.5)  | 14 (56.0)  | 18 (60.0)    | 4 (21.1)   | 13 (38.2)  | 3 (14.3)   |
|           |                            | 申し訳ない             | 女性/娘         | 22 (78.6)  | 15 (57.7)  | 19 (73.1)    | 4 (17.4)   | 5 (14.3)   | 5 (26.3)   |
| 不明        | 不明                         | 分からない、            | 男性/息子        | 2 (7.7)    | 4 (16.0)   | 3 (10.0)     | 2 (10.5)   | 1 (2.9)    | 3 (14.3)   |
|           |                            | まだわからない           | 女性/娘         | 3 (10.7)   | 2 (7.7)    | 1 (3.8)      | 0 (0.0)    | 2 (5.7)    | 1 (5.3)    |
| 合計        |                            |                   | 男性/息子        | 26 (100.0) | 25 (100.0) | 30 (100.0)   | 19 (100.0) | 34 (100.0) | 21 (100.0) |
|           |                            |                   | 女性/娘         | 28 (100.0) | 26 (100.0) | 26 (100.0)   | 23 (100.0) | 35 (100.0) | 19 (100.0) |

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。



## 親が期待していないことの心理的意味

親が期待していないことの心理的意味について、青年世代において父親で112件、母親で86件が得られ、親世代の父親から37件、母親から42件の記述が得られた。青年世代と親世代それぞれで親が期待していないことの心理的意味について、内容の類似性に基づいて分類、整理し、最終的に両方を統合した結果、7グループが見いだされた。さらに、それらのグループは「1-自由」「2-疑念」「3-無関心」「4-無執着」の4カテゴリーにまとめられた。7グループを4カテゴリーに整理する信頼性を確かめるために、親の期待している理由および親の期待にこたえられない場合の反応予期と同様の手続きで、発達心理学を専門とする大学教員3名にカテゴリーの評定を依頼した。グループごとに2件ずつ計14件の記述例についていずれのカテゴリーが最もあてはまるかを評定してもらった結果、最終的なカテゴリーと3名の評定者間の一致率の平均は85.7% (78.6-92.9%)、 $\kappa$ 係数の平均は.81 (.71-.90)であった(すべて $p<.001$ )。Landis & Kock (1977) の基準では「ほぼ一致」(.81-1.00)となった。父親が期待していないことの心理的意味をTable 6、母親が期待していないことの心理的意味をTable 7に示す。

「1-自由」は「委ね」「気楽さ」の2グループが含まれており、親が期待していないことは子自身に生き方を委ねており、そこには気楽さもあるという自由を意味するものである。「2-疑念」は「本心への疑問」の1グループであり、親が子のことをどのように思っているかわからないという疑念を意味するものである。「3-無関心」は「さびしさ」「無駄」の2グループが含まれており、親が期待していないことにさびしさを感じることや、親が期待していないのは期待するだけ無駄だという子への関心の無さを意味するものである。「4-無執着」は「当然視」「特に何も感じない」の2グループが含まれており、親が期待していないことは当然のことであり、特に何も感じないという子が親の期待にこだわっていないことを意味するものである。

Table 6 父親が期待していないことの心理的意味

| カテゴリー | グループ         | 記述例               | 青年世代(親が期待していないことのとらえ方) |            |            |            | 親世代(子へ期待していない理由) |           |           |
|-------|--------------|-------------------|------------------------|------------|------------|------------|------------------|-----------|-----------|
|       |              |                   | 年齢群                    | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳     | 15-19歳           | 20-24歳    | 25-29歳    |
| 1-自由  | 委ね、気楽さ       | 子の生き方を尊重する        | 男性/息子                  | 2 (14.3)   | 5 (29.4)   | 2 (15.4)   | 8 (66.7)         | 2 (40.0)  | 2 (50.0)  |
|       |              | プレッシャーなどがなくて良い    | 女性/娘                   | 6 (30.0)   | 11 (47.8)  | 12 (48.0)  | 3 (100.0)        | 7 (77.8)  | 3 (75.0)  |
| 2-疑念  | 本心への疑問       | 裏で悪く言う            | 男性/息子                  | 0 (0.0)    | 2 (11.8)   | 0 (0.0)    | 0 (0.0)          | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
|       |              | あまり重要なことは話合わない    | 女性/娘                   | 3 (15.0)   | 0 (0.0)    | 2 (8.0)    | 0 (0.0)          | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 3-無関心 | さびしさ、無駄      | もう少し期待してくれてもいいと思う | 男性/息子                  | 2 (14.3)   | 0 (0.0)    | 1 (7.7)    | 2 (16.7)         | 2 (40.0)  | 2 (50.0)  |
|       |              | 自分に関心がないのかと思う     | 女性/娘                   | 3 (15.0)   | 3 (13.0)   | 3 (12.0)   | 0 (0.0)          | 0 (0.0)   | 1 (25.0)  |
| 4-無執着 | 当然視、特に何も感じない | 当然のこと             | 男性/息子                  | 10 (71.4)  | 10 (58.8)  | 10 (76.9)  | 2 (16.7)         | 1 (20.0)  | 0 (0.0)   |
|       |              | どうでもいい、特に理由はない    | 女性/娘                   | 8 (40.0)   | 9 (39.1)   | 8 (32.0)   | 0 (0.0)          | 2 (22.2)  | 0 (0.0)   |
| 合計    |              |                   | 男性/息子                  | 14 (100.0) | 17 (100.0) | 13 (100.0) | 12 (100.0)       | 5 (100.0) | 4 (100.0) |
|       |              |                   | 女性/娘                   | 20 (100.0) | 23 (100.0) | 25 (100.0) | 3 (100.0)        | 9 (100.0) | 4 (100.0) |

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。

Table 7 母親が期待していないことの心理的意味

| カテゴリー | グループ         | 記述例               | 青年世代(親が期待していないことのとらえ方) |            |            |            | 親世代(子へ期待していない理由) |           |           |
|-------|--------------|-------------------|------------------------|------------|------------|------------|------------------|-----------|-----------|
|       |              |                   | 年齢群                    | 15-19歳     | 20-24歳     | 25-29歳     | 15-19歳           | 20-24歳    | 25-29歳    |
| 1-自由  | 委ね、気楽さ       | 信頼してもらっていると感じる、   | 男性/息子                  | 3 (33.3)   | 1 (8.3)    | 4 (36.4)   | 1 (16.7)         | 2 (40.0)  | 4 (57.1)  |
|       |              | 気が楽               | 女性/娘                   | 4 (30.8)   | 10 (50.0)  | 12 (57.1)  | 7 (70.0)         | 5 (100.0) | 9 (100.0) |
| 2-疑念  | 本心への疑問       | 態度が統一していない        | 男性/息子                  | 0 (0.0)    | 0 (0.0)    | 0 (0.0)    | 0 (0.0)          | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
|       |              | わからない             | 女性/娘                   | 0 (0.0)    | 2 (10.0)   | 0 (0.0)    | 0 (0.0)          | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 3-無関心 | さびしさ、無駄      | 少し寂しい、            | 男性/息子                  | 0 (0.0)    | 1 (8.3)    | 0 (0.0)    | 4 (66.7)         | 3 (60.0)  | 3 (42.9)  |
|       |              | 散々期待はずれな目に遭わされたから | 女性/娘                   | 4 (30.8)   | 0 (0.0)    | 3 (14.3)   | 1 (10.0)         | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 4-無執着 | 当然視、特に何も感じない | 当然の事、             | 男性/息子                  | 6 (66.7)   | 10 (83.3)  | 7 (63.6)   | 1 (16.7)         | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
|       |              | 特に何も感じない、特になし     | 女性/娘                   | 5 (38.5)   | 8 (40.0)   | 6 (28.6)   | 2 (20.0)         | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 合計    |              |                   | 男性/息子                  | 9 (100.0)  | 12 (100.0) | 11 (100.0) | 6 (100.0)        | 5 (100.0) | 7 (100.0) |
|       |              |                   | 女性/娘                   | 13 (100.0) | 20 (100.0) | 21 (100.0) | 10 (100.0)       | 5 (100.0) | 9 (100.0) |

注) 数字は記述の件数および( )内は性別ごとの各年代の割合である。親世代には、15歳以上の最も年上と最も年下の子どもへの期待の両方が含まれている。性別ごとの各年代で記述割合が50.0%以上の箇所に網掛けした。

父親と母親の両方について性別ごとに各年代の記述割合をみると、親世代で「1-自由」は父親から40.0-100.0%、母親から16.7-100.0%であり5割以上みられる場合も多いが、青年世代では20-29歳の女性における母親（50.0-57.1%）について以外は5割に達していない。「4-無執着」の記述割合は青年世代で28.6-83.3%と多くみられ、特に男性ではすべて5割以上であったことに対して、親世代では0.0-22.2%とほとんどみられなかった。また、「2-疑念」は青年世代の男性から母親および親世代ではみられなかった。

## 考察

本研究では、青年世代と親世代の双方からみた親の期待のあり方について、親の期待している理由、親の期待にこたえられない場合の反応予期、親が期待していないことの心理的意味という観点から検討した。親の期待を「まったく感じていない」とした青年は30.2-56.1%であり（Table 1）、池田（2009）で大学生221名（男性103名、女性118名）のうち男性16名（15.5%）、女性20名（16.9%）が「まったく感じていない」と回答したことに比べて多かった。web調査を用いたことで、幅広い職業状況にある青年から回答が得られたことも影響していると考えられる。また、子どもが25歳以上になると、青年も親も結婚・家庭生活に関する期待を感じるが多くなっていた。

親の期待している理由について「1-子のための思い」「2-親の考えの優先」「3-現状懸念」という3種類が見いだされた（Table 2、3）。内田（2014）を参考にすると、「1-子のための思い」はポジティブな側面としての“子どもへの思い”、「2-親の考えの優先」はネガティブな側面としての“操作的期待”が対応していると考えられた。加えて、親が子の現状を懸念し、その能力を低く評価するという「3-現状懸念」が期待の背景にある場合も示された。このように青年と親の双方において、親の期待の多義性がみられることが指摘できる。 $\kappa$ 係数の平均が.58（中程度の一致）にとどまったことも、親の期待に多義的な理由が混在しやすいことが関係していると考えられた。

親の期待にこたえられない場合の反応予期には「1-子への支援」「2-子の意思の尊重」「3-子への非難」という3種類が見いだされた（Table 4、5）。渡部（2013）と比較すると、「1-子への支援」は「サポート反応予期」、「3-子への非難」は「落胆的反応予期」と対応していると考えられた。加えて、親子の関係は特に変わらないという「2-子の意思の尊重」という反応予期があることも示された。「1-子への支援」「3-子への非難」はいずれも子が親の期待に沿うことが前提になっていることに対して、「2-子の意思の尊重」は親の期待にこたえられない場合も仕方がないというあきらめや受容がみられるといえる。

親が期待していないことの心理的意味は、「1-自由」「2-疑念」「3-無関心」「4-無執着」という4種類が見いだされた（Table 6、7）。池田（2011）を参考にすると、「1-自由」には「委ね」、「2-疑問」には「模索」、「3-無関心」には「見捨てられ感」の内容がそれぞれ含まれていた。その一方で、親の本心を疑うという「2-疑問」や「特に何も感じない」などの「4-無執着」が青年世代で特に多くみられた。このことは、青年世代には親が期待していないことのとらえ方を尋ねたことに対して、親世代には自身が期待していないことの理由を尋ねたことが影響した可能性もある。

本研究の青年世代と親世代は実際の親子ではないことに留意する必要があるが、青年は親が抱いているよりも親からの期待を感じておらず、青年と親を感じる期待のあり方にずれがみられる場合のあることが示唆された。子が親の期待にこたえられない場合でも支援すると考える親が多かった一方で、青年は親から非難されると考える傾向が多くみられた（Table 4、5）。さらに親が期待していないことも、親にとっては生き方を子に委ねるなど自由を意味する一方で、青年にとっては特にこだわらないという無執着を意味することが多くみられた（Table 6、7）。Smetana（2011）が親と子の相互交渉による自律性の発達を

論じているように、青年と親が感じる期待のあり方のずれを調整したり、お互いが納得できるように変化させたりすることが重要になると考えられる。そこでは、親の期待のあり方のずれが、青年期の親子関係を変化させるきっかけになるという可能性も指摘できる。親の期待にこたえられない場合に、親から強い非難を受けたり、親から支援を受けてその期待を達成するように努めたりするだけではなく、いわば「期待はずれ」の自分となったとしても親との関係は変化しないと実感できることは青年と親の双方にとって重要であるといえる。このことは内田（2014）が指摘する“操作的期待—行き詰まり—あきらめ—ありのままを認めるというプロセス”（p.238）の後半の期待のあり方にも重なると考えられる。同時に、親の期待に過剰に応えようとする問題（春日，1997；内田，2014）を考えると、親が期待していないことに特にこだわらない無執着というあり方も、青年の発達にとって有意味であるといえる。

また、父親と母親による期待を区別して検討した結果、母親から25-29歳の息子へ期待している理由として「2-親の考えの優先」、15-24歳の息子へ期待していないことについて「3-無関心」が多くみられた（Table 3、7）。小高（2008）は、父親に比べて母親と青年は葛藤が高く、その一方で親密でもあることを報告している。本研究の息子には長男も含まれており、親密であるがゆえに家を継いでもらいたいなどの強い期待を向けていた可能性や、その期待がかなわない場合には反動として無関心という否定的な態度が生じたことも予想される。さらに、「3-子への非難」という反応予期は、青年世代の女性は父親と母親の両方で期待にこたえられない場合に5割以上みられたが、男性は母親の期待にこたえられない場合のみに5割以上みられた（Table 4、5）。青年世代の男性における親が期待していないことの心理的意味は、父親と母親の両方で「4-無執着」が5割以上の記述がみられた（Table 6、7）。女性では父親と母親の両方で期待にこたえられない場合に否定的な反応を予期しやすく、男性は親が期待していないことを過剰に気にしない傾向が示されており、父親・母親と息子・娘との関係ごとに親の期待のあり方の特徴が異なることも指摘できる。

本研究の課題と展望について、次の3点にまとめる。第1に、青年世代と親世代の双方の結果に基づいて、親の期待のあり方を尋ねる質問項目を作成し、親の期待に対する反応様式（池田，2009）との関係を数量的に検討することである。このことによって、親の期待のあり方が親の期待に対する反応様式へどのように影響しているかを明らかにすることができる。第2に、親の期待のあり方の発達の変化を検討することである。本研究では、青年期から成人期への移行が進む20代後半には青年も親も結婚・家庭生活に関する期待を感じるが多くなり、男女共に父親の期待、母親は息子へ期待している理由として親の考えの優先を多くあげていた。親の期待のあり方を尋ねる質問項目を用いることで、父親と母親それぞれの期待のあり方について、性別と年代ごとの特徴を確かめることもできる。第3に、今回は青年世代と親世代が実際の親子関係でなかったため、青年と親のペアデータによって親の期待のあり方のずれを調整していくような相互作用を検討することが課題である。

## 付記

本研究は和洋女子大学平成26年度研究奨励費（個人研究）の助成を受けました。本研究をまとめるにあたり、2014年9月10日（水）日本心理学会シンポジウム“青年の成長と親の成長—青年心理学の新展開（4）—”（企画：高坂康雅；話題提供：池田幸恭、信太寿理、水本深喜；指定討論：伊藤美奈子）での議論を参考にいたしました。カテゴリー評価へ協力いただいた先生方、貴重なご意見をくださった査読者の先生方へ厚く御礼を申し上げます。

## 註

- 1) 親の期待と子どもの意思が合致している程度、親の期待を子どもが達成している程度、家族関係満足度も尋ねたが、本研究では取りあげない。
- 2) たとえば、男性が父親からの期待を「まったく感じていない」とした47名(44.3%)、父親が息子への期待を「まったく感じていない」とした25名(23.6%)と、男性が父親からの期待を「どちらかといえば感じている」「感じている」「非常に感じている」とした回答を合わせた59名(55.7%)、父親が息子への期待を「どちらかといえば感じている」「感じている」「非常に感じている」とした回答を合わせた81名(76.4%)の組み合わせについて、 $\chi^2$ 検定を行った。

## 引用文献

- 池田幸恭. 大学生における親の期待に対する反応様式とアイデンティティの感覚との関係. 青年心理学研究. 2009, 21, p.1-16.
- 池田幸恭. 青年期における親の期待とアイデンティティ形成との関係を理解するための視点—小沢一仁氏のコメントに対するリプライ. 青年心理学研究. 2011, 23, p.61-65.
- 池田幸恭. 青年心理学における親の期待に対する反応様式の授業実践. 和洋女子大学紀要. 2016, 56, p.55-66.
- 春日耕夫. 「よい子」という病—登校拒否とその周辺. 岩波書店, 1997, 238p.
- 川喜田二郎. 続・発想法—KJ法の展開と応用. 中央公論新社, 1970, 328p.
- 小高恵. 青年の親への態度についての発達的变化—心理的離乳過程のモデルの提案. 太成学院大学紀要. 2008, 10, p.31-48.
- Landis, J.R.; Koch, G. G. The measurement of observer agreement for categorical data. Biometrics. 1977, 33, p.159-174.
- Simons-Morton, B.G. The protective effect of parental expectations against early adolescent smoking initiation. Health Education Research. 2004, 19, p.561-569.
- Smetana, J. G. Adolescents, families, and social development: How teens construct their worlds. Chichester, West Sussex: Wiley-Blackwell, 2011, 336p.
- 内田利広. 期待とあきらめの心理—親と子の関係をめぐる教育臨床. 創元社, 2014, 272p.
- 渡部雪子. 期待への行動結果に対する親の反応についての予期尺度作成の試み. 立正大学心理学研究所紀要. 2013, 11, p.67-73.

池田 幸恭 (和洋女子大学 人文社会科学系 准教授)

(2017年11月14日受理)